

## 第4回 神戸市役所本庁舎2号館再整備事業者選定委員会 議事概要

(1) 日 時：令和3年2月8日（月） 10時00分～12時00分

(2) 会議形式：WEB会議

(3) 選定委員：

嘉名 光市	大阪市立大学大学院工学研究科 教授（委員長）
奥田 浩美	(株)ウィズグループ 代表取締役社長
栗山 尚子	神戸大学大学院工学研究科 准教授
清水 裕之	名古屋大学 名誉教授
武田 重昭	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授
谷澤 実佐子	谷澤公認会計士事務所 代表

(4) 議 事：

- ①新型コロナウイルスの影響を踏まえた新庁舎等のあり方
- ②市民利用空間に関する方向性
- ③事業者公募の考え方等について

(5) 委員からの意見要旨等

- ①新型コロナウイルスの影響を踏まえた新庁舎等のあり方

〈庁舎機能、ホール機能等のあり方に関するまとめ〉

- ・とりまとめ資料の位置づけについて、アフターコロナ社会における新たな感染症や災害対策等を中心に記載しているということを明確に示した方が良いだろう
- ・アフターコロナ社会を見据えた際に必要と考えられるICTやデジタルトランスフォーメーション、フレキシビリティなどを全体に共通するベースとしながら各機能の検討を行ったという整理が必要ではないか
- ・ICT技術を用いたネットワークやセキュリティなどの要素は、各機能での対応のほか、施設全体の考え方として示したほうが良いのではないか
- ・市民目線に立つと、市民利用空間のあり方は重要な視点になると思われるので、ある程度分量を確保してメッセージ性を込めた書きぶりとした方が良いのではないか
- ・市民にとって何がよくなるかについてももう少し丁寧に記載されると良い
- ・資料に掲載する具体的な表現やイメージ写真等について、市民や事業者等に対して仕様まで決定しているような誤解を与える可能性もあるため、記載の仕方を配慮すべき

## ②市民利用空間に関する方向性

- ・開放的な空間を整備することは大事なポイントであるが、その分運営についてもしっかりと考える必要があるのではないか
- ・運営を切り離して考えることはできないと思うので、施設の開設当初から運営が始められるように、準備期間も含めて公募条件を整理しておくことが重要ではないか
- ・運営にまちづくりの専門家やボランティア等多様な人材が参画する仕組みは、あらかじめ作っておいたほうが良いだろう
- ・市民利用空間で生み出したいものを長期的なコンセプトとして提示できるようになれば、単発なイベントだけとならず、運営主体も取り組みやすいだろう
- ・他都市の公共空間の事例を参考にするのも良いが、神戸という大都市の特性も踏まえた神戸版の市民利用空間を作っていく必要があるのではないか
- ・これまでの委員会で提案された使い方の全てに対して満点を目指すのではなく、必要なものを選択判断しても良いのではないか
- ・庁舎の一部ということで制約があるかもしれないが、ぜひ実現できるよう仕組みを考えてもらいたい

## ③事業者公募の考え方等について

⇒公募要件や要求水準の主な内容等について事務局より説明を行った後、意見交換を行った。